

碧南市特別支援教育推進活動委員会だより

執筆 編集 発行
碧南市特別支援教育推進活動委員会
啓発活動部

さ さ え あ い

第69号



碧南市特別支援教育推進委員会では、児童・生徒が将来自立できるよう援助する活動を計画し、推進しています。また、市民のみなさんに特別支援教育を一層理解していただけるよう「ささえあい」を発行しています。今号は、特別支援学級と通級指導教室を紹介します。

絵で描いてみたよ 雨の音♪ 中央小学校

10月9日、特別支援学級の児童を対象に藤井達吉現代美術館の出前講座が行われました。授業の目標は「雨音を表現しよう」、はじめに様々な雨音を聴いて、その音を言語化しました。子どもたちは「ポチャン」「ぽとん」「ちゃっぽん」「シャー」など感じたままに言葉でつぶやき出しました。この日はちょうど雨。外に出て雨を観察しました。水の雫が同心円状の波紋となる様子を目のあたりにした子どもたちは、自分の好きな色で水の様子を円で描き始めました。美術館の指導員である稲垣先生の魔法にかかった子どもたちは、さまざまな色で雨音を表現しました。柔らかなタッチでパステル調に描く子や雨が滴る雫に着目して描きだす子など、一人一人の個性が際立ちました。授業の終盤では子どもたちが描いた雨音を鑑賞し合うことで再び風情ある雨音が心の中に響き渡り、2時間という時間があっという間に過ぎました。芸術の秋にぴったりな一日となりました。



縫製作業 がんばっています！ 中央中学校

中央中学校の作業学習や自立活動の時間で、縫製作業を行っています。今年度は、エコバッグ、トートバッグ、マスク、マスクケースなどの実用的な作品を作っています。毎時間授業の最初に、生徒が自分たちの作業目標を決め、集中して取り組んでいます。繰り返すうちに自分たちで手順を覚え、一人で作り上げることができるようになりました。「3年間ミシンを練習して、まっすぐに縫うことができるようになりました。」

(中3男子)「3年間でミシンが上手に使えるようになって嬉しいです。またいろいろな商品を作りたいです。」(中3女子)「かわいい作品がいっぱいできて嬉しいです。」(中1女子)「上手にいろいろな作品が作れました。」(中1男子)どの生徒も、作業学習を通して充実感や達成感を感じることができています。



縫製作業の様子

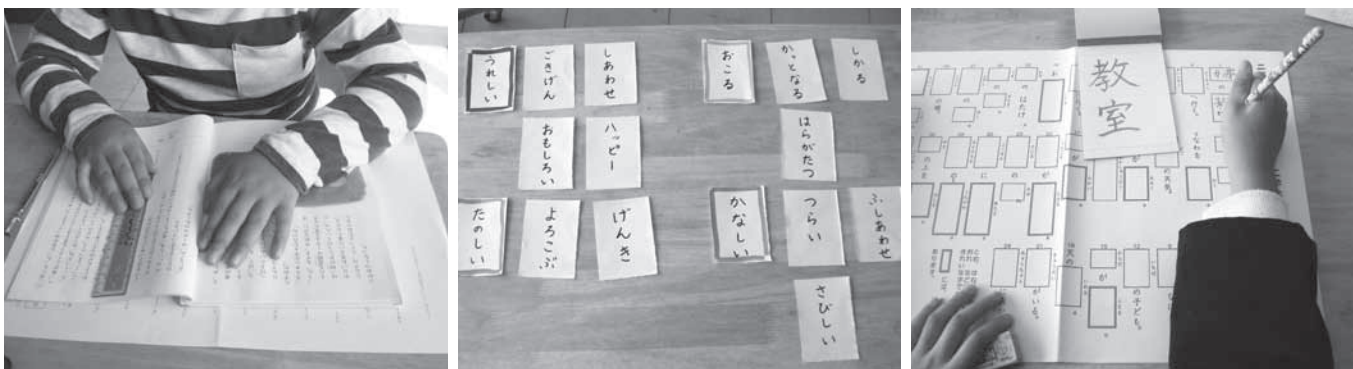
和紙作り 奮闘中！ 南中学校

南中学校では、作業学習で和紙作りを行っています。まず、材料となる牛乳パックを手でもみほぐして柔らかくします。結構力が必要です。次に水と一緒に鍋に入れ、じっくり煮込んでさらに柔らかくします。そのあと、いったん水で冷まし、パックの表面をコーティングしているビニールをはがします。そして、柔らかくなった紙を手で細かくちぎり、さらにミキサーで繊維状になるまで細かくします。この時に色紙を混ぜることで赤や青などきれいに色がつきます。さらに、これを専用の道具を使って紙すきを行い、ホワイトボードなどにはりつけて乾燥させ、最後に、ローラーで表面をならして和紙が出来上がります。紙すきはなかなか難しく、はりつけるときにちぎれることもあり、やり直しも多いです。2・3年生の生徒が下級生にやり方を教え、何度も練習して1年生もずいぶん上達してきました。今では生徒の特性に合わせて、分担して作業を行っています。学年の隔てもなく、お互いを認め合い、協力し合って作業している姿に、彼らの確かな成長を感じます。



通級指導教室はこんなところですよ

「文字の読み書きが苦手」、「話を聞き取ることが難しい」、「友達とうまくつき合えない」など、学校生活の中でさまざまな困難を抱えている子がいます。「通級指導教室」では、こうした子のために、子どもたちの「つまづき」の原因から、その子に合った指導計画を立て、子どもたち自身が自分で苦手を克服し、問題を解決できる活動（自立活動）を行います。碧南市では、子どもたちが本来持っている力を引き出し、いきいきと学校生活を過ごせるための支援を目的に「通級指導教室」を全小学校と西端中学校に設置しています。「通級指導教室」では、保護者の方や先生方の意見を聞きながら、子どもたちに応じた指導を行っています。



**そくばい会
中止の
お知らせ**

毎年2月に新川中学校体育館で、市内特別支援学級の児童生徒とふれあい作業所の方々で作った作品のそくばい会を開催してきました。しかし、今年度は、新型コロナウイルス感染症が拡大している状況を受け、参加者および関係者の健康・安全面を第一に考慮して、中止することにいたしました。開催を楽しみにして下さっていた皆様にはご迷惑をおかけしますが、ご理解をいただきますようお願い申し上げます。